

WYSE MANAGEMENT SUITE 1.0 検証ガイド 1.0 版

本ドキュメントでは、Dell Wyse Management Suite 1.0（以下 WMS 略）を検証いただく際に、一般的なセットアップ方法、運用タスクについて説明しています。お客様・パートナー様にて WMS を検証いただく際の参考としていただければと思います



1 Wyse Management Suite 1.0 概要

WMS は、Dell の全てのシンクライアントをサポートする管理ツールです。導入時のキッティングから、運用中の設定変更、アプリケーションの更新といったシンクライアントのライフサイクル全般の運用負荷を軽減いただけます。

1.1 機能概要

WMS では主に下記の機能を提供します。

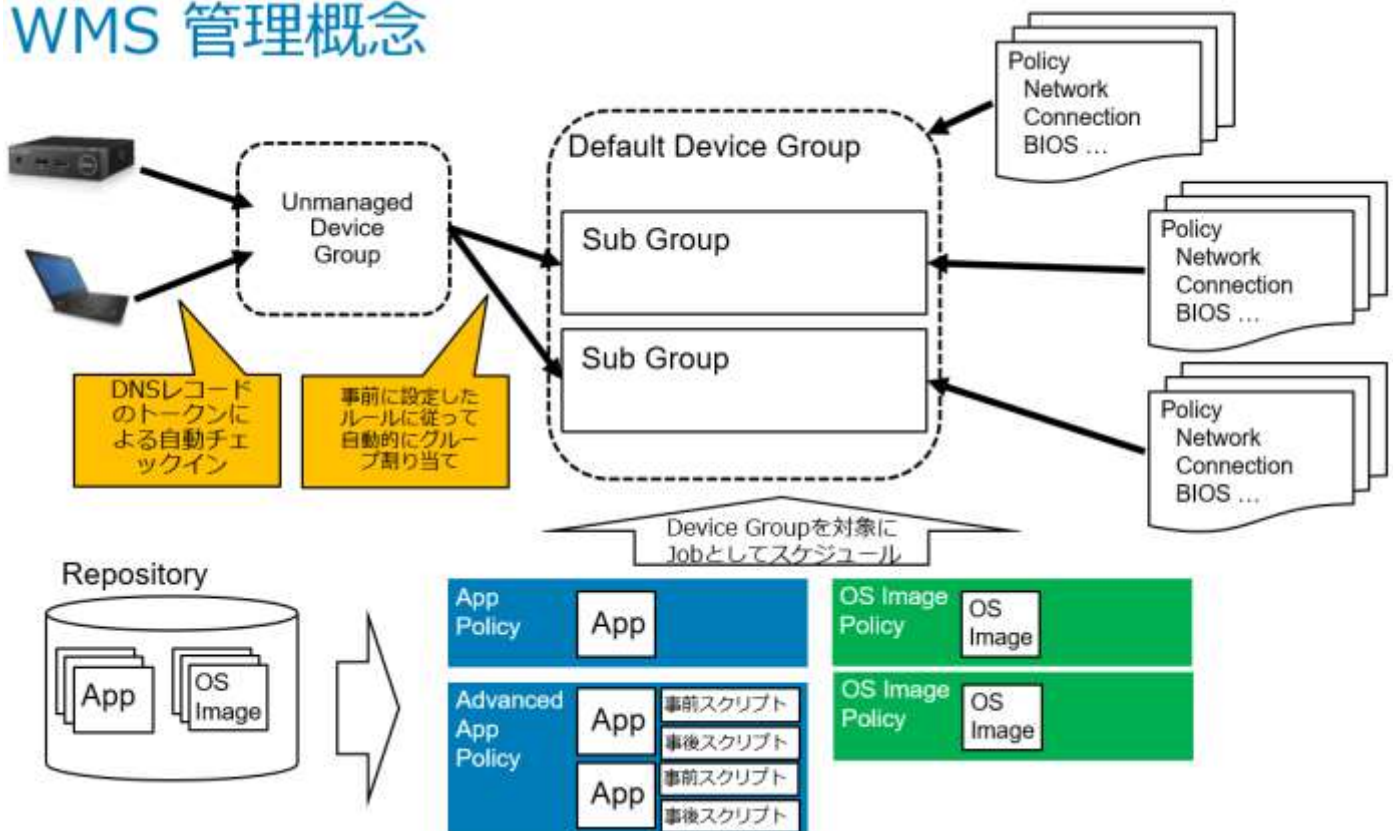
| 機能 | 説明 |
|--------------|---|
| OS イメージの展開 | Windows シンクライアントのマスターイメージをネットワーク展開します |
| アプリケーションの展開 | アプリケーションパッケージをネットワーク経由でリモートインストールします |
| アセット管理 | お客様環境内のシンクライアントのアセット管理およびレポーティング |
| OS 設定の展開 | OS 環境設定や VDI 接続設定、BIOS 設定などをネットワーク経由で展開します |
| リアルタイムコマンド発行 | シャットダウン、ロック、再起動、デスクトップメッセージ送付、Wake on LAN 等を実行します |
| トラブルシューティング | シンクライアント情報の確認、OS ログの取得、画面ショットの取得など |

1.2 管理概念

WMS におけるシンクライアントの管理概念について説明します。

| 概念 | 説明 |
|---------------------|---|
| デバイス | シンクライアント端末そのものです |
| デバイスグループ | 用途、利用者層などの共通事項により分類するデバイスのグループです。WMS ではデバイスグループを中心として、設定や OS イメージ、アプリケーションの配信を実施します デバイスグループは階層構造をとることが可能で、サブグループは親グループのポリシーを継承し、自身の個別ポリシーを追加定義可能です。 |
| ポリシー | VDI 接続設定、システム設定、BIOS 設定（一部機種のみ）の定義です。OS 種類により設定可能な項目が異なります |
| レポジトリ | OS イメージやアプリケーションを保存するファイルサーバ |
| App Policy | アプリケーションパッケージと展開ルールを定義したもの |
| Advanced App Policy | アプリケーションパッケージと展開ルールを定義したもの。 複数アプリケーションの同時展開や事前/事後処理の定義も可能 |
| OS Image Policy | OS イメージと展開ルールを定義したもの |

WMS 管理概念



2 Wyse Management Suite 1.0 の導入

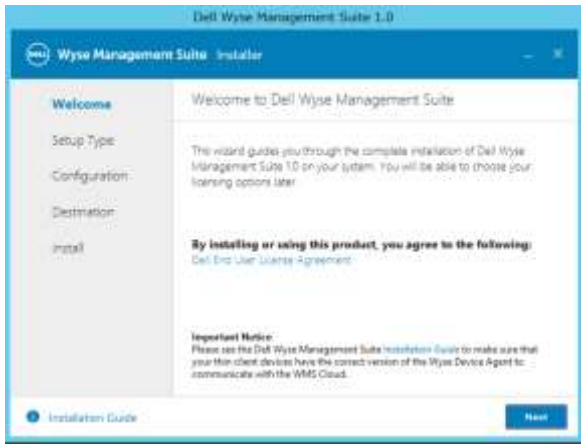
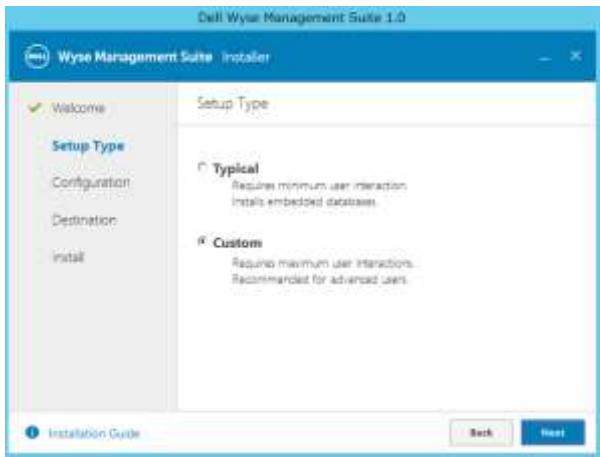
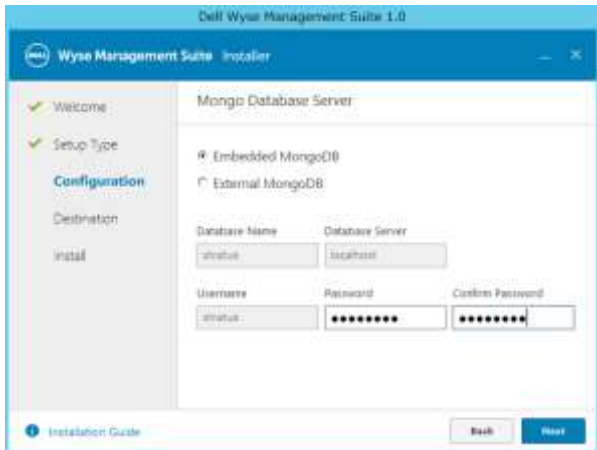
WMS は Windows Server OS 上に構築するサーバアプリケーションです。WMS 1.0 Administrators Guide に記載のシステム要件に従って導入する OS 環境を準備します。

https://downloads.dell.com/wyse/WMS/1.0/WMS_1.0_Administrators_Guide_v1.0.pdf

WMS.exe を下記 URL よりダウンロードし実行します。

<https://downloads.dell.com/wyse/WMS/1.0/>

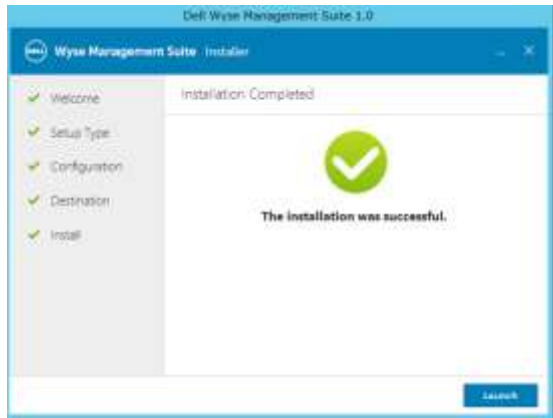


| 項番 | 画面 | 操作 |
|----|---|---|
| 1 |  | Welcome [Next] ボタンを押します |
| 2 |  | Setup Type セットアップ方法を選択します。 本書では[Custom] を選択し、 [Next]ボタンを押します。 |
| 3 |  | Configuration WMS で使用する DB MongoDB の設定を行います。 本 書 で は WMS サーバ に MongoDB を同居させる構成と し ま す の で 、 [Embedded MongoDB] を選択します。 MongoDB のユーザアカウント stratus のパスワードを設定し、 [Next] ボタンを押します。 |



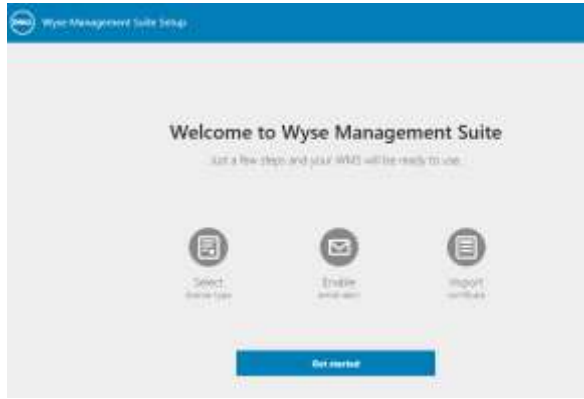
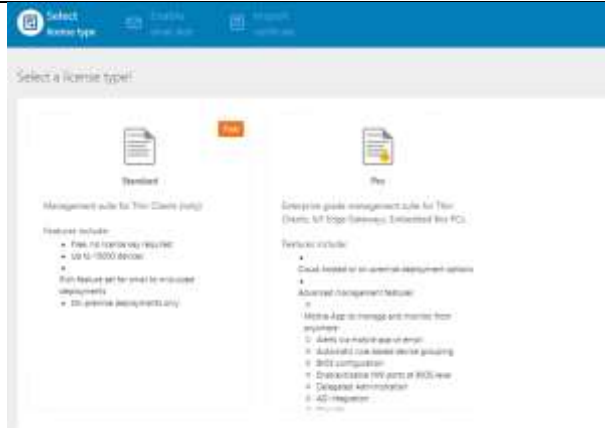
| | | |
|---|--|--|
| 4 | | <p>MariaDB Database Server</p> <p>WMS で使用する MariaDB の設定を行います。本書では WMS サーバに MariaDB を同居させる構成としますので、[Embedded MariaDB] を選択します。</p> <p>MariaDB のユーザアカウント stratus のパスワードを設定し、[Next] ボタンを押します。</p> |
| 5 | | <p>Credential</p> <p>管理者ユーザアカウントの設定を行います。WMS のローカルアカウントを作成することになります。</p> <p>First Name, Last Name, Email Address とパスワードを入力します。</p> <p>ここで入力した Email Address が以降の WMS UI で使用する管理者になります。</p> <p>[Next] ボタンを押します。</p> |
| 6 | | <p>以上の入力が終わると、インストールが開始されます。</p> <p>環境に依存しますが、5 分程度で完了します。</p> |



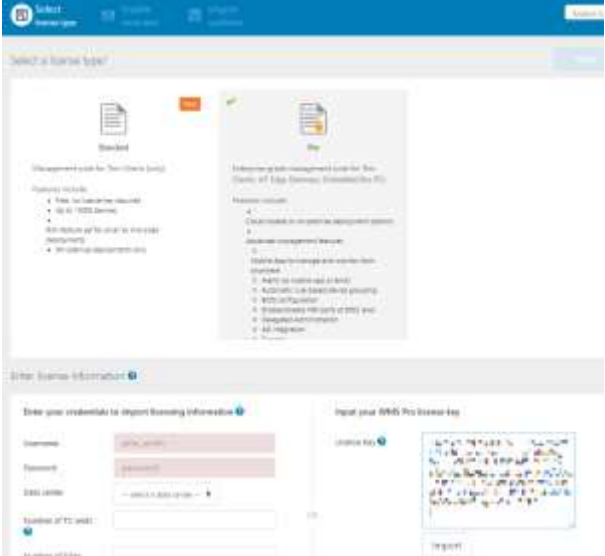
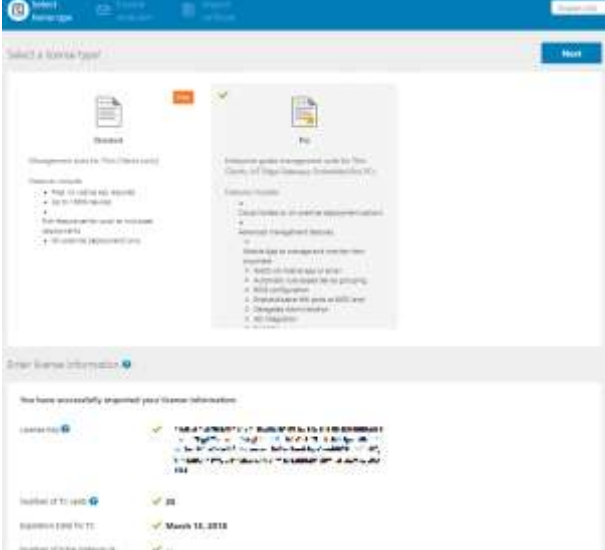

| | | |
|---|---|---|
| 7 |  | 左画面が表示されたらインストール完了です。 [Launch] ボタンを押すことで初期セットアップウィザードを起動します。 |
|---|---|---|

2.1 初期セットアップウィザード

インストール UI の最後に [Launch] ボタンを押すか、ブラウザより URL “<https://<WMS FQDN>/ccm-web/setup>” にアクセスすることで初期セットアップウィザードを起動できます。初期セットアップウィザードでは Edition の選択およびライセンスキーの入力、メール通知設定、WMS の証明書設定をウィザードにて実施いただけます。

| 項番 | 画面 | 操作 |
|----|---|--|
| 1 |  | Welcome to Wyse Management Suite [Get Started] ボタンを押します |
| 2 |  | Select a license Type! 導入する WMS の Edition を選択します。本書では Pro を選択します。 |



| | | |
|---|---|--|
| 3 |  | <p>Pro を選択した場合、ライセンスキー情報を入力する必要があります。画面下部の Input your WMS Pro license key にライセンスキーを入力して [Import] ボタンを押します。</p> |
| 4 |  | <p>入力したライセンスが確認され、問題なければ [Next] ボタンを押します。</p> |
| 5 |  | <p>Setup email alerts WMS からのメール通知機能を設定します。本書ではメール通知機能は設定しませんので、[Skip] ボタンを押して先に進みます。</p> |

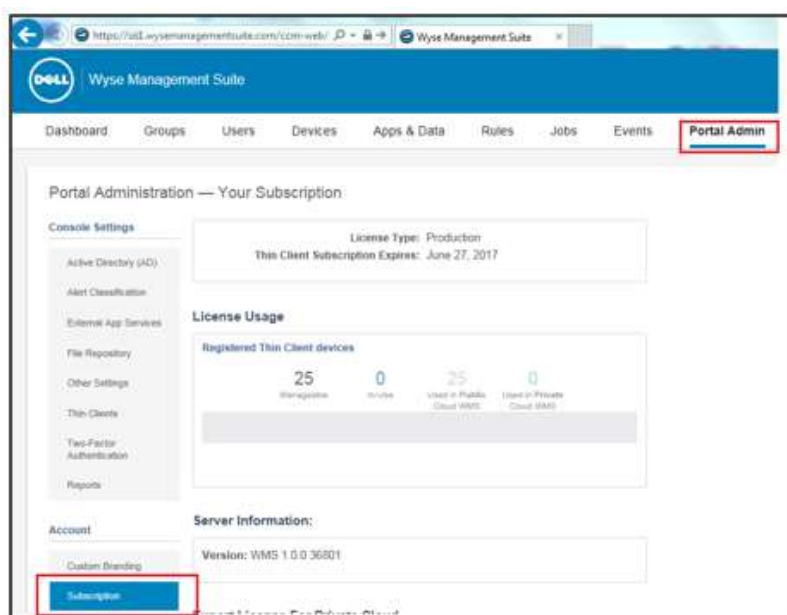
| | | |
|---|--|---|
| 6 | | <p>Import certificate</p> <p>WMS で使用する証明書を設定します。</p> <p>本書では管理 UI にて設定するため、ここでの設定は割愛します。 [Skip] を押して次に進みます。</p> |
| 7 | | <p>以上にて初期セットアップウィザードの操作は完了です。</p> |

2.2 WMS Pro の評価ライセンスキーの入手について

Dell では WMS Pro の 45 日間の評価用ライセンスキーを提供しています。以下の URL にて必要事項を入力いただくことでライセンスキーを入手いただけます。

<https://www.wysemanagementsuite.com/trial.aspx>

オンプレミスにて構築する WMS で入力するライセンスキーは一旦クラウド版 WMS のコンソールのライセンス管理画面にて、オンプレミス利用用のライセンスキーとしてエクスポートすることで入手いただけます。

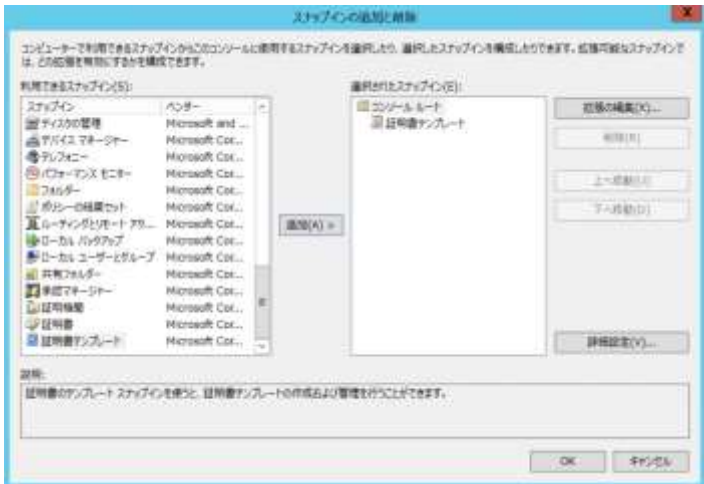
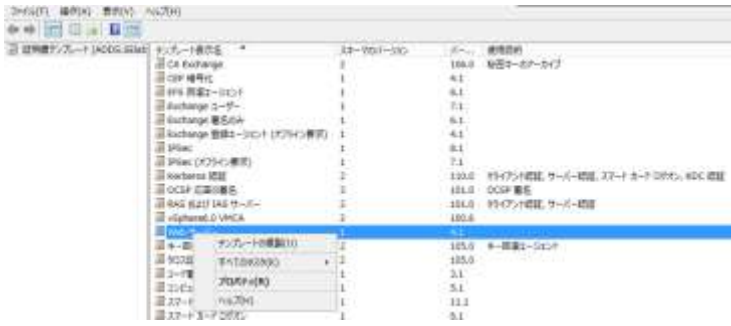






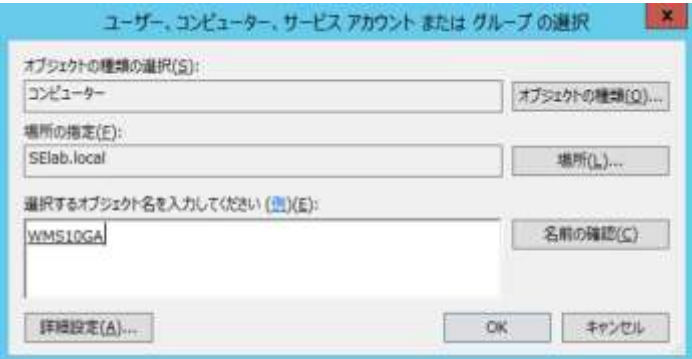
2.3 WMS のシステム設定


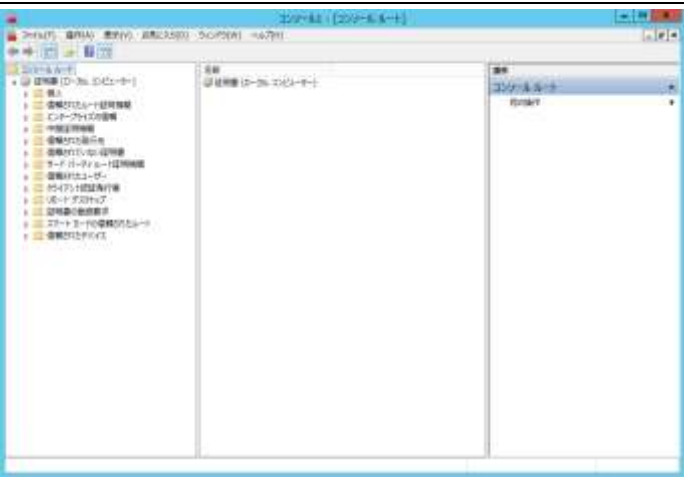
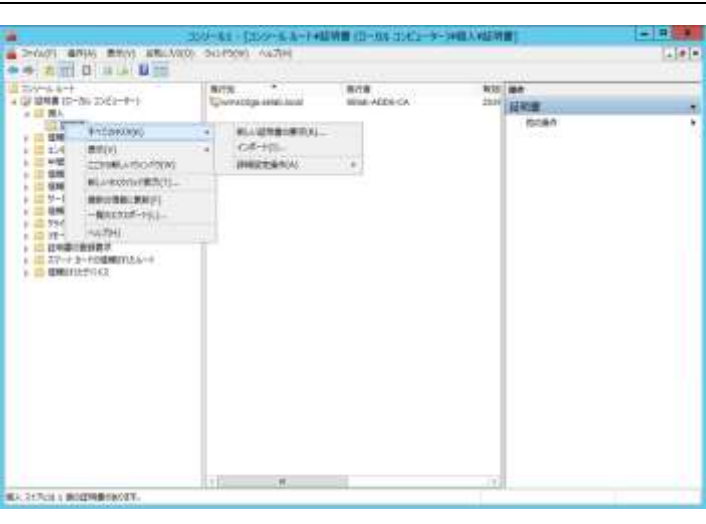
WMS コンソールより証明書の登録、AD 管理ユーザ連携、デフォルトデバイスグループを設定します。

本書では Active Directory 証明書サービスが導入されている前提で設定手順を説明します。




| 手順 | 画面 | 説明 |
|----|---|---|
| 1 |  | AD 証明書サービスが導入されているホストにログインし、MMC を起動し、「証明書テンプレート」スナップインを追加します。 |
| 2 |  | デフォルトのテンプレート「Web サーバ」を複製します |



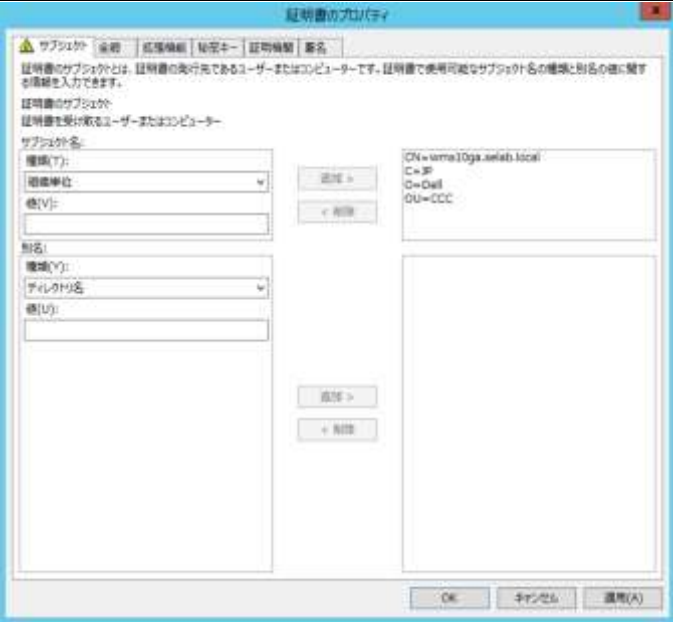
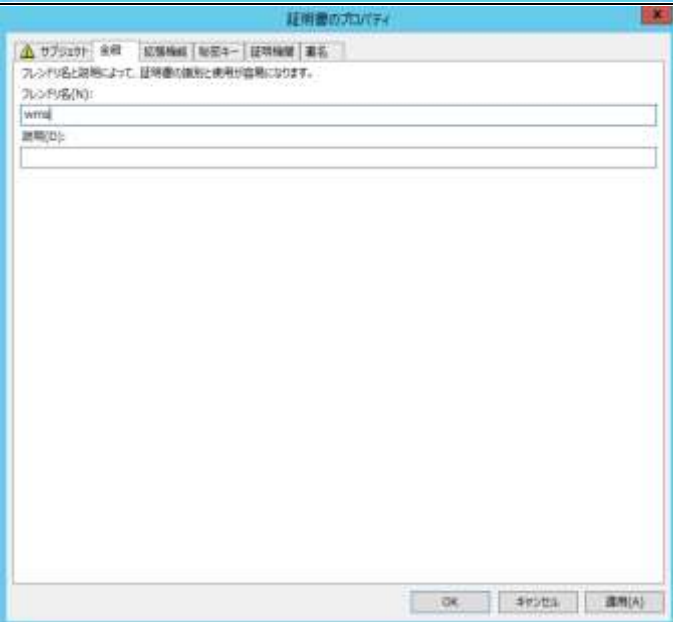
| | | |
|---|---|---|
| 3 |  | <p>新しいテンプレートのプロパティ</p> <p>全般->テンプレートの表示名 を設定します</p> <p>また、有効期間も企業のポリシーに準じて変更します。</p> |
| 4 |  | <p>新しいテンプレートのプロパティ</p> <p>セキュリティ->グループ名またはユーザ名にて WMS をホストするコンピュータアカウントを追加します。</p> <p>[追加] ボタンを押します</p> |
| 5 |  | <p>[オブジェクトの種類] ボタンを押し、コンピュータを選択します。</p> <p>[選択するオブジェクト名を入力してください]の欄に WMS のホスト名を入力し、[名前の確認] ボタンを押します。</p> <p>完了したら [OK] ボタンを押します</p> |




| | | |
|---|---|---|
| 6 |  | <p>追加したコンピュータアカウントに対するアクセス許可設定を追加します。</p> <p>[登録] のアクセスの「許可」にチェックを入れて、OK を押します。</p> |
| 7 |  | <p>WMSを導入したホストにログインし、MMCを起動し、ローカルコンピュータアカウントの「証明書」スナップインを追加します。</p> |
| 8 |  | <p>証明書->個人->証明書 を右クリックし、すべてのタスク->新しい証明書の要求を選択します。</p> |



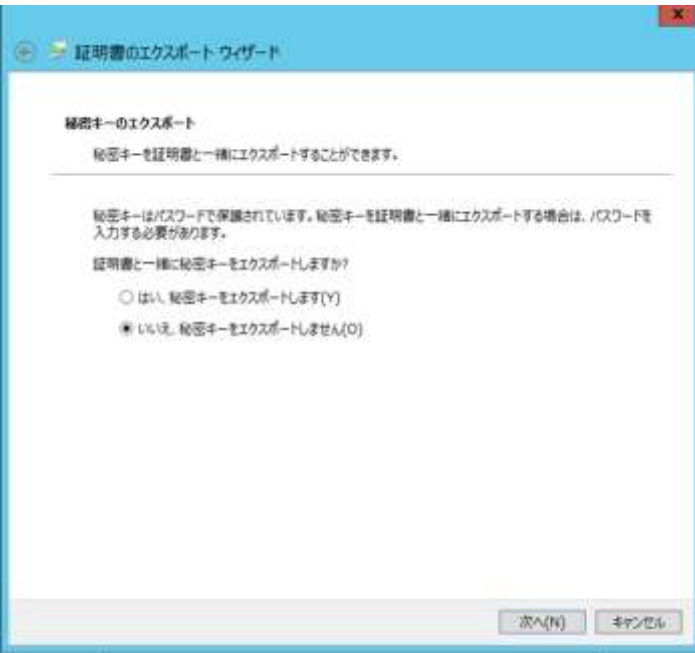
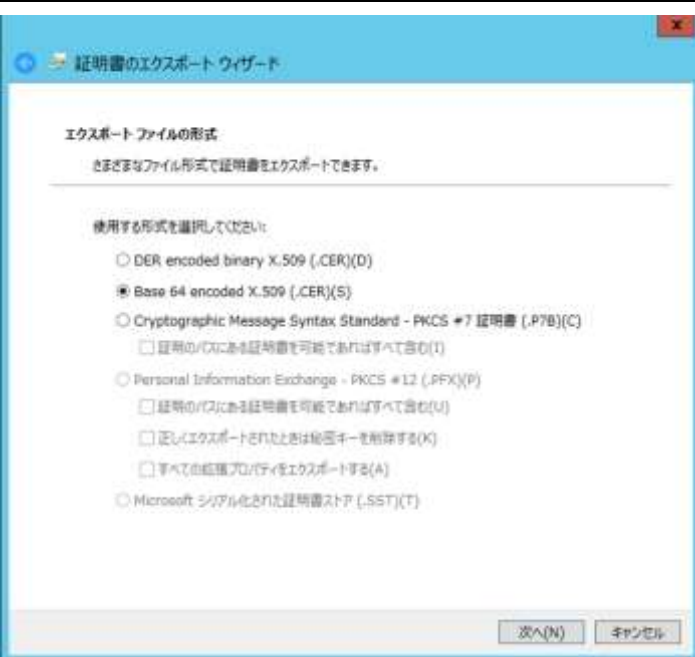
| | | |
|----|---|---|
| 9 |  | 開始する前に [次へ] をクリックします。 |
| 10 |  | 証明書登録ポリシーの選択 [Active Directory 登録ポリシー] を選択し、 [次へ] ボタンを押します。 |
| 11 |  | 証明書の要求 先ほど新規作成したテンプレートを選択し、 [プロパティ] ボタンを押します。 |



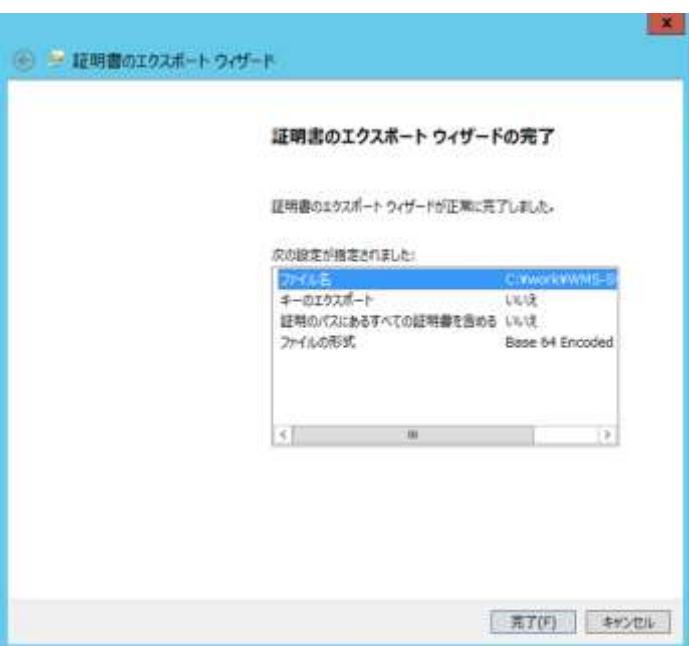
| | | |
|----|--|---|
| 12 |  | <p>証明書のプロパティ</p> <p>サブジェクトタブにて必要事項を入力します。</p> <p>本書では下記を設定します</p> <p>共通名 wms10ga.selab.local</p> <p>国 JP</p> <p>組織 Dell</p> <p>組織単位 CCC</p> |
| 13 |  | <p>証明書のプロパティ</p> <p>全般タブにてフレンドリ名を入力します。本書では“WMS”と入力します。</p> <p>[適用] し、[OK]ボタンを押します。</p> |

| | | |
|----|---|--|
| 14 |  | <p>証明書の登録</p> <p>[登録] ボタンを押します。</p> |
| 15 |  | <p>新しく登録した証明書を右クリックし、すべてのタスク->エクスポートを選択します。</p> |
| 16 |  | <p>証明書のエクスポートウィザード</p> <p>[次へ] ボタンを押します。</p> |

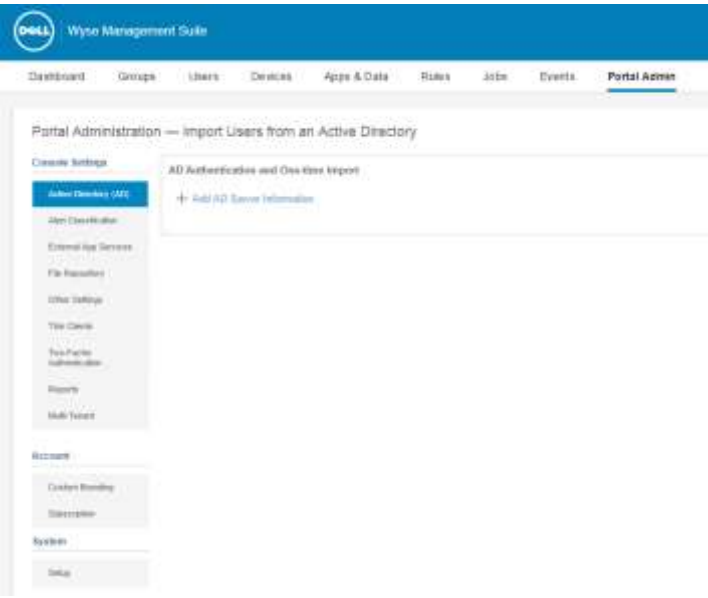

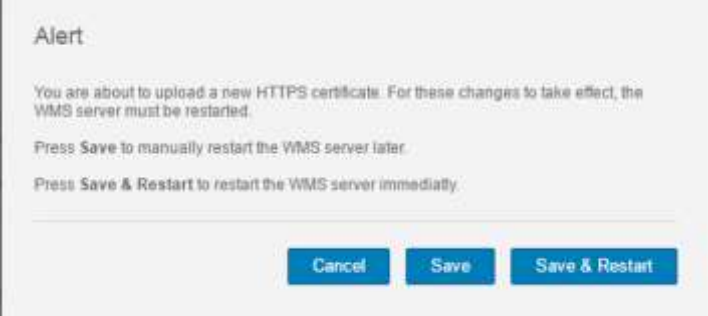


| | | |
|----|--|---|
| 17 |  | <p>秘密キーのエクスポート</p> <p>「いいえ、秘密キーをエクスポートしません」を選択し、[次へ] を押します。</p> |
| 18 |  | <p>エクスポートファイルの形式</p> <p>「Base 64 encoded X.509」を選択し、[次へ] を押します。</p> |



| | | |
|----|--|---|
| 19 |  | <p>エクスポートファイル 保存先とファイル名を入力して、[次へ] を押 します。</p> |
| 20 |  | <p>[完了]を押します。</p> |



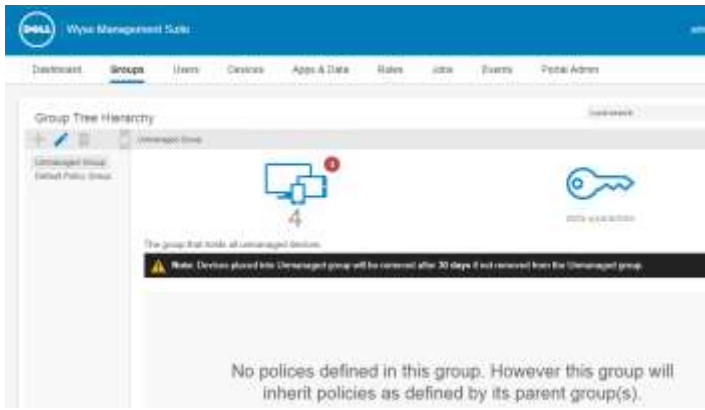
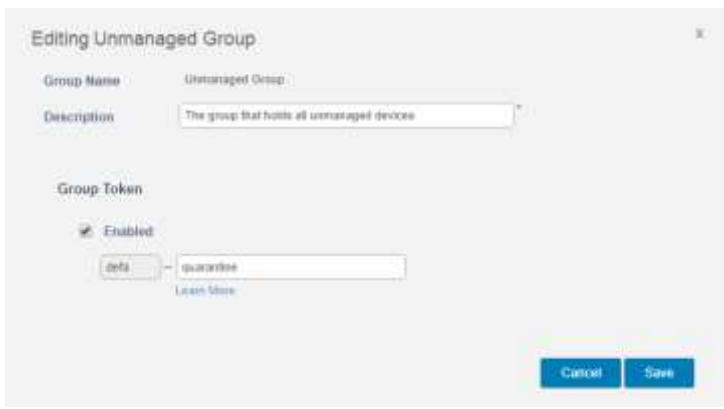
| | | |
|----|---|---|
| 21 |  | WMS の Web コンソールにサインインし、「Portal Admin」タブを選択します。 |
| 22 |  | System -> Setup を選択します。 Certificate 横の [Browse...] ボタンを押し、エクスポートした証明書ファイルを選択し、[Save] ボタンを押します。 |
| 23 |  | Alert がポップアップします。 [Save & Restart] を押します。WMS サービスが再起動し、設定が完了します。 |



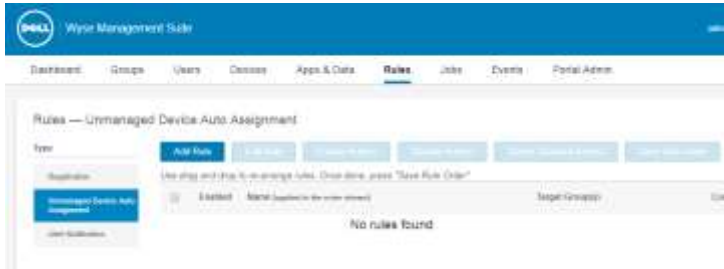
2.4 デバイスの登録環境の構築

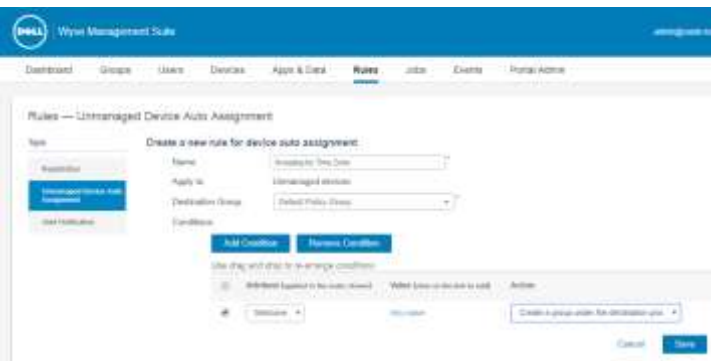
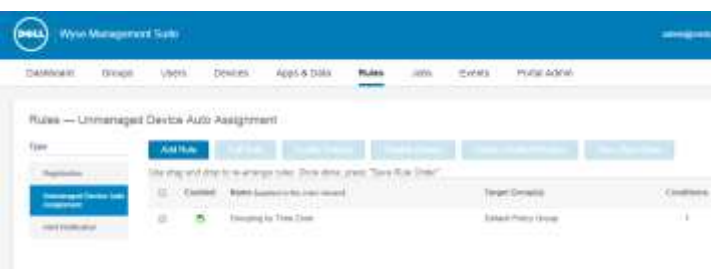
本書では、デバイスが自動的にチェックイン（WMS への登録）し、デフォルトの “Unmanaged” デバイスグループからタイムゾーン毎のデバイスグループに自動グルーピングされる環境とします。

“Unmanaged”デバイスグループの Token の設定

| 手順 | 画面 | 説明 |
|----|--|--|
| 1 |  | WMS コンソールにサインインし、Group タブを選択します。 左ペインの “Unmanaged Group” を選択し、ペンマークをクリックします。 |
| 2 |  | Editing Unmanaged Group Group Token 配下のトークン欄に任意のテキストを入力します。 [Save] ボタンを押します。 |

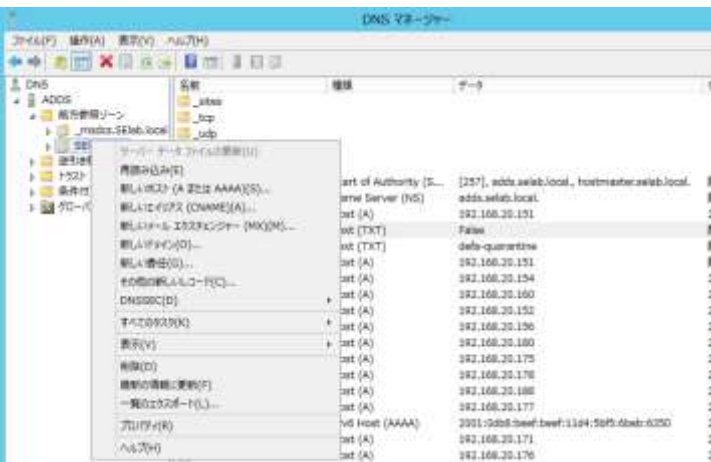
自動デバイスグルーピングの設定

| 手順 | 画面 | 説明 |
|----|---|--|
| 1 |  | WMS にサインインし、Rule タブを開きます。 左ペインにて、“Unmanaged Device Auto Assignment” を選択します。 右ペインにて [Add Rule] を押します。 |

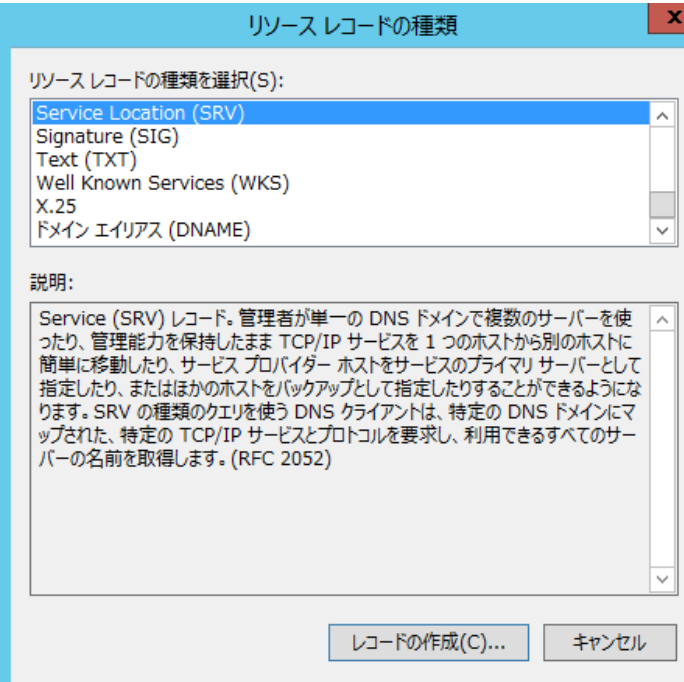
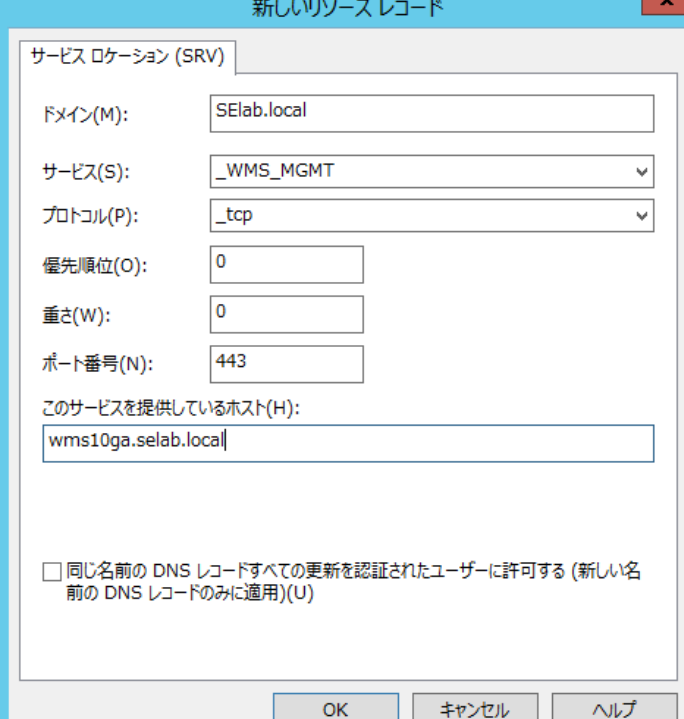
| | | |
|---|--|---|
| 2 |  | <p>Create a new rule for device auto assignment</p> <p>Name 欄にルール名を入力します。</p> <p>Destination Group は “Default Policy Group” のままとします。</p> <p>[Add Condition] ボタンを押します。</p> <p>追加されたコンディションにて下記設定を選択します。</p> <p>Attribute : timezone</p> <p>Action : Create a group under the destination group</p> <p>最後に [Save] ボタンを押します。</p> |
| 3 |  | <p>以上で設定は完了です。</p> |

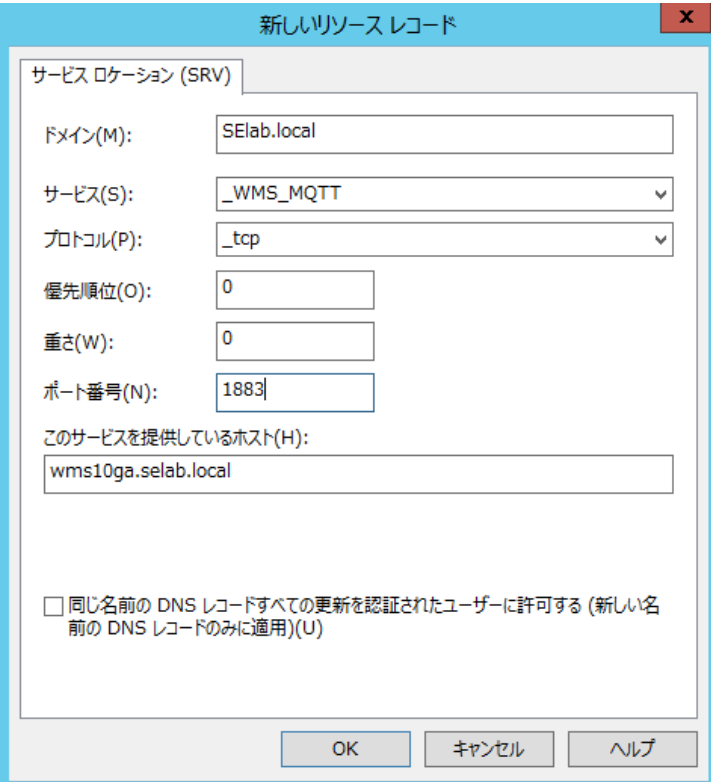
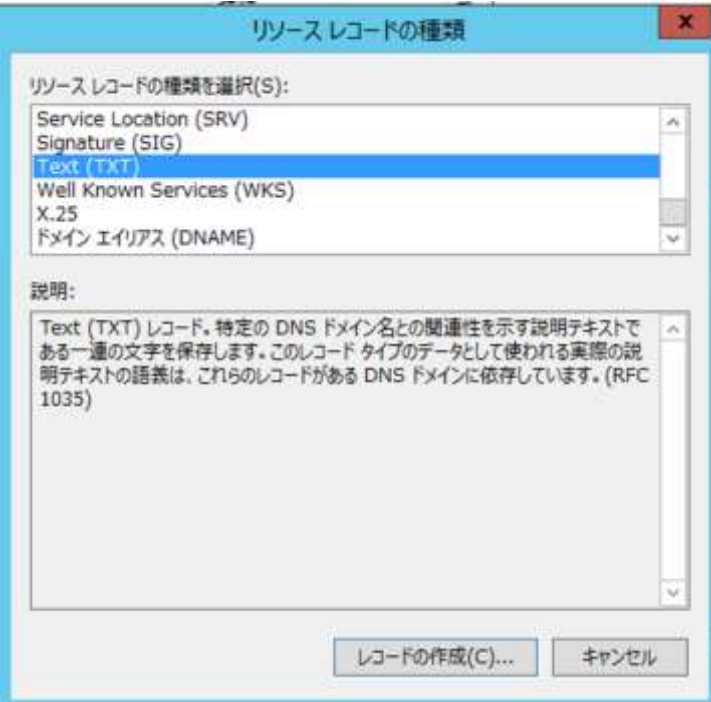
2.5 自動チェックインのネットワーク環境の構成



WMS では DHCP や DNS によってデバイスが WMS の情報を取得し、自動的にチェックインすることが可能です。本書では DNS を用いて自動チェックインさせる設定を行います。

| 手順 | 画面 | 説明 |
|----|---|--|
| 1 |  | <p>DNS をホストするサーバにログインし、DNS マネージャを起動します。</p> <p>WMS を利用する DNS ドメインを右クリックし、[その他の新しいレコード] を選択します。</p> |



| | | |
|---|--|--|
| 2 |  | <p>リソースレコードの種類</p> <p>Service Location (SRV) を選択し、 [レコードの作成] を押します。</p> |
| 3 |  | <p>新しいリソースレコード</p> <p>以下を入力し、[OK] を押します。</p> <p>サービス : _WMS_MGMT プロトコル : _tcp ポート番号 : 443 このサービスを提供しているホスト : <WMS サーバの FQDN></p> |

| | | |
|---|---|--|
| 4 |  | <p>手順 2,3 同様に新しいリソースレコードを作成します。</p> <p>サービス : _WMS_MQTT プロトコル : _tcp ポート番号 : 1883 このサービスを提供しているホスト : <WMS サーバの FQDN></p> |
| 5 |  | <p>手順 2 同様に新しいリソースレコードを追加します。</p> <p>リソースレコードの種類として Text(TXT)を選択し、[レコードの作成] を押します。</p> |


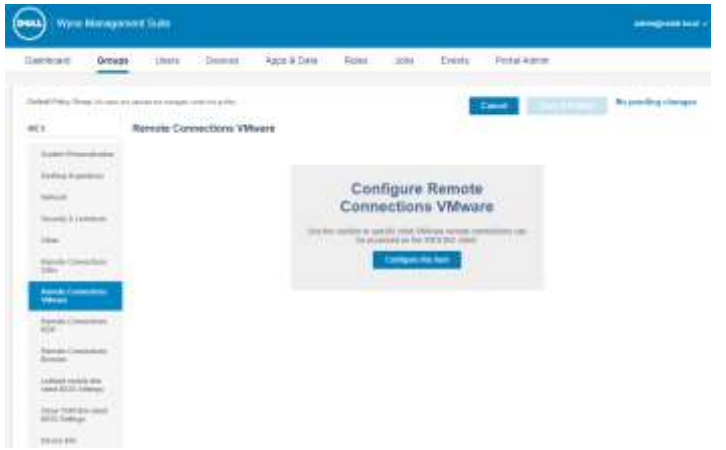
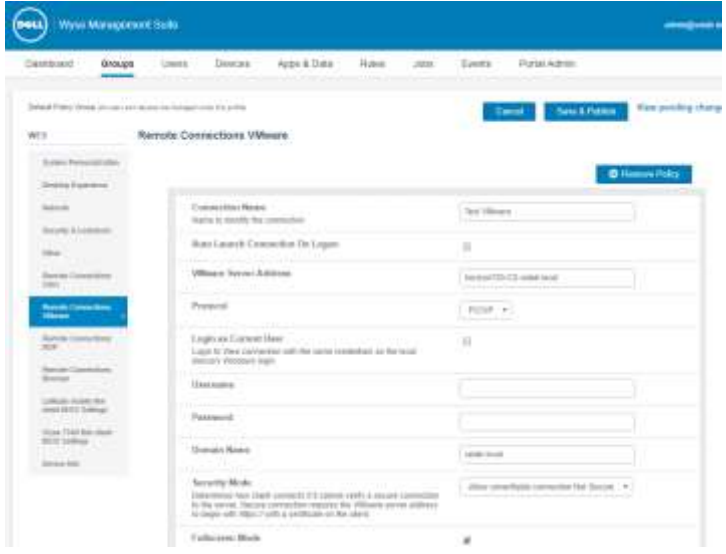
| | | |
|---|--|---|
| 6 |  | <p>新しいリソースレコード</p> <p>以下を入力し、[OK] を押します。</p> <p>エイリアス名：_WMS_CAVVALIDATION</p> <p>テキスト：False</p> |
| 7 |  | <p>手順 5,6 同様に新しい TXT リソースレコードを作成します。</p> <p>以下を入力し、[OK] を押します。</p> <p>エイリアス名：_WMS_GROUPTOKEN</p> <p>テキスト：<Unmanaged Device Group のトークン></p> |




3 デバイスポリシー設定

WMS ではデバイスグループに所属するデバイスに対する設定を「ポリシー」として定義することができます。設定できる項目はシステムの設定から、VDI 環境への接続設定情報、BIOS 設定（Latitude 3460・5280, Wyse 7040 のみ）に至ります。

本書では Windows Embedded 端末に VMware Horizon への接続情報を設定してゆきます。

| 手順 | 画面 | 説明 |
|----|---|---|
| 1 |  | WMS へサインインし、Group タブを選択します。 左ペインよりポリシーを定義するデバイスグループを選択します。 右ペイン、「Edit Policy」をクリックし、OS 種別を選択します。 本書では WES を選択します。 |
| 2 |  | 左ペインより「Remote Connections VMware」を選択し、右ペインの [Configure this item] を押します。 |
| 3 |  | 必要事項を入力し、[Save & Publish] ボタンを押します。 本書では下記を入力します。 Connection Name: VMware Horizon01 VMware Server Address: <接続サーバ FQDN> Protocol: PCoIP Domain Name: <Domain 名> |

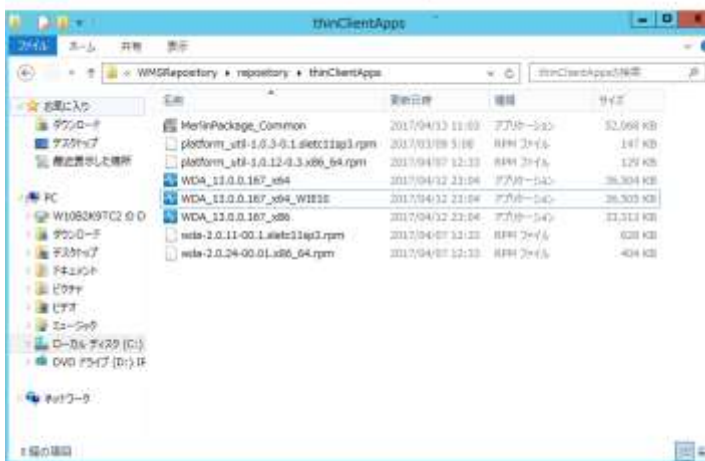


| | | |
|---|---|---|
| 4 |  | Group タブの画面に戻ります。 設定した Device Group に先ほど入力した設定内容が表示されます。 |
|---|---|---|

4 アプリケーションの配信

WMS にてアプリケーションを配信する場合、「アプリケーションポリシー」を作成し、「ジョブ」としてスケジュールすることで配信することができます。アプリケーションポリシーでは、レポジトリに保存されている「どのアプリケーションパッケージ」を、「どの対象」に展開するかを定義します。アプリケーションポリシーには「Application Policy」と「Advanced Application Policy」があります。「Application Policy」は単一のアプリケーションを指定し、対象に対して展開する場合に使用します。「Advanced Application Policy」では単一または複数のアプリケーションが指定可能であり、またアプリケーション導入の事前/事後に実行するバッチなども指定することが出来るため、より細かな配信が可能であり、また複数アプリケーションを展開する際の端末のリポート回数を少なくすることができます。

本書では Windows Embedded 端末に、OS イメージングに必須となる Merlin Package の最新版を展開する手順を紹介します。

| 手順 | 画面 | 手順 |
|----|---|---|
| 1 |  | レポジトリ アプリケーションのレポジトリは WMS を導入した際に指定したロケーション配下の repository¥thinClientApps というフォルダーとなります。 本書では C:¥WMSRepository を指定しているため、C:¥WMSRepository¥repository¥thinClientApps というフォルダーがアプリケーションレポジトリとなります。 |



The screenshot displays the 'Apps & Data' section of the Dell Wyse Management Suite. The main heading is 'Apps & Data - Thin Client App Inventory'. Below this, there's a sidebar with navigation options like 'App Inventory', 'Thin Client', 'OS Image Repository', 'WDS', 'VMDK', 'OS Image Problems', and 'Thin Client Logs'. The main content area shows a table of installed applications on thin clients.

| Name | Version | Deployment Mode | Size | Path | Status |
|---------------------------------|---------|----------------------------|----------|-----------------------|--------|
| MicrosoftEdge_Central-win | 1.0.0 | Local repository - WDS1000 | 20.5 MB | C:\Users\10152017\... | OK |
| MSMA_10.0.0.167_004.exe | 1.0.0 | Local repository - WDS1000 | 20.5 MB | C:\Users\10152017\... | OK |
| MSMA_10.0.0.167_004_00010.exe | 1.0.0 | Local repository - WDS1000 | 44.8 MB | C:\Users\10152017\... | OK |
| MSMA_10.0.0.167_004.exe | 1.0.0 | Local repository - WDS1000 | 22.5 MB | C:\Users\10152017\... | OK |
| gdmwin_jdk-10-0.0-0-00_00.exe | 1.0.0 | Local repository - WDS1000 | 126.2 KB | C:\Users\10152017\... | OK |
| gdmwin_jdk-10.0.0-0-0001000.exe | 1.0.0 | Local repository - WDS1000 | 196.9 KB | C:\Users\10152017\... | OK |
| jdk-10.0.0-0-0001000.exe | 1.0.0 | Local repository - WDS1000 | 827.3 KB | C:\Users\10152017\... | OK |
| jdk-10.0.0-0-0001000_00.exe | 1.0.0 | Local repository - WDS1000 | 400.7 KB | C:\Users\10152017\... | OK |

App Policies -> Thin Client をクリックしま
す。

The screenshot shows the 'Apps & Data' section of the Dell Wyse Management Suite. The main heading is 'Apps & Data - Thin Client App Policies'. Below this, there are four buttons: 'Add Policy', 'Add Advanced Policy', 'Add App', and 'Add Group'. A table is present with the following columns: 'Thin Client', 'Policy Name', 'Status', 'ID', 'Applicable', 'OS Type', 'Status', 'Last', and 'Apply to New Devices'. The table is currently empty, displaying 'No policies'. At the bottom, there is a 'Thin Client' button and a link to 'Thin Client Resources'.

App Standard TC App Policy

必要事項を入力し、[Save] ボタンを押します。

本書では下記を設定します。

Add Standard TC App Policy

Policy Name

Apply Mailbox

Group

OMT-01:00

Task

Install Application

OS Type

WES

TC Application

MerlinPackage_Common.exe (Loc)

OS Subtype Filter

WES7P (Windows Embedded Star)

Platform Filter

None selected

Installer Parameters

Timeout (1 - 999 min.)

2

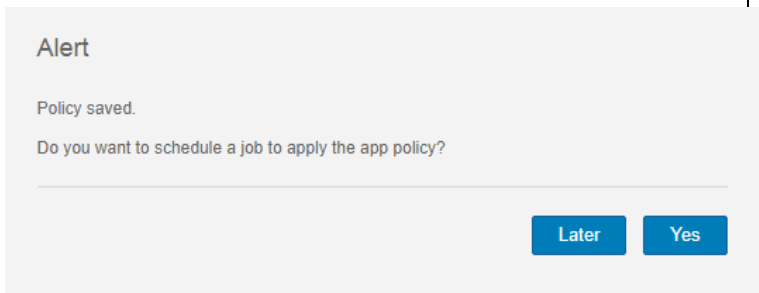
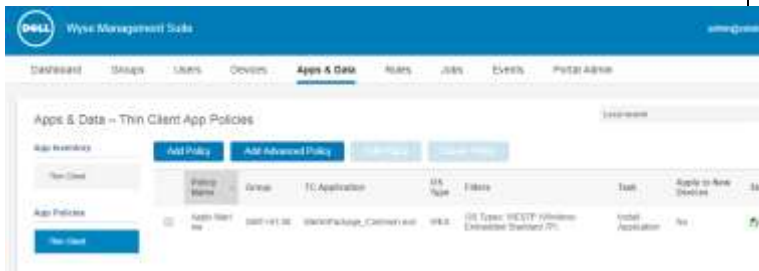

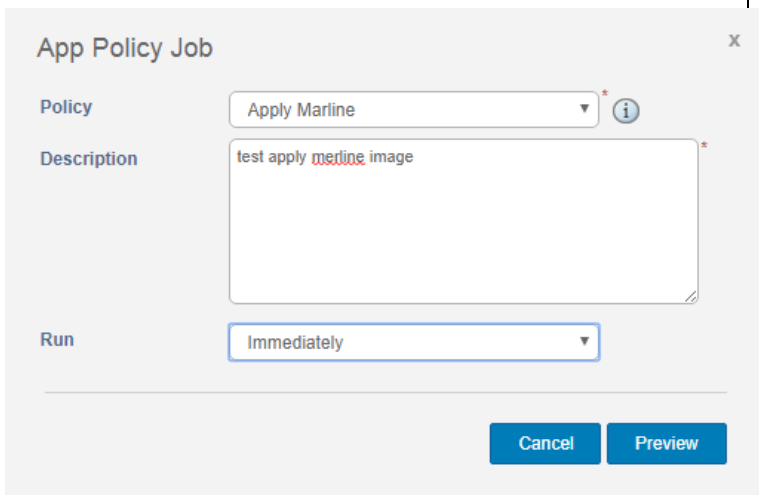
☐ Allow delay of policy execution

☒ Apply the policy to new devices

CancelSave

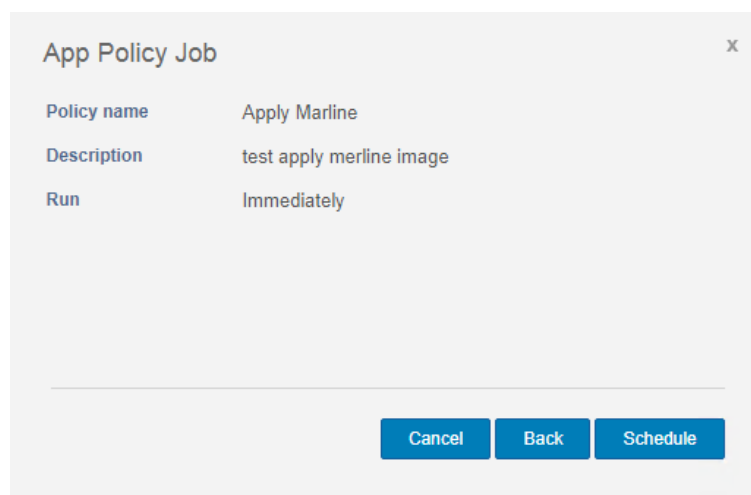
Policy Name: Apply Merline
Group: <対象デバイスグループ名>
Task: Install Application
OS Type: WES
TC Application:
MerlinePackage_Common.exe



| | | |
|---|---|--|
| 5 |  <p>Alert</p> <p>Policy saved.</p> <p>Do you want to schedule a job to apply the app policy?</p> <p>Later Yes</p> | <p>Alert</p> <p>ジョブの作成を行うか問われます。</p> <p>本書では [Later] を押します。</p> |
| 6 |  <p>Wise Management Suite</p> <p>Apps & Data - Thin Client App Policies</p> <p>App Policies</p> | <p>App Policies -> Thin Client にて先ほど作成したアプリケーションポリシーが表示されていることが確認できます。</p> |
| 7 |  <p>Wise Management Suite</p> <p>Jobs</p> <p>Schedule App Policy</p> | <p>WMS 上部の Jobs タブを選択します。</p> <p>[Schedule App Policy] ボタンを押します。</p> |
| 8 |  <p>App Policy Job</p> <p>Policy: Apply Marline</p> <p>Description: test apply merline image</p> <p>Run: Immediately</p> <p>Cancel Preview</p> | <p>App Policy Job</p> <p>必要事項を入力し、[Preview] ボタンを押します。</p> <p>本書では下記入力を行います。</p> <p>Policy : Apply Merline</p> <p>Description: test apply Merline image</p> <p>Run: Immediately</p> |



9



App Policy Job

Policy name Apply Marline

Description test apply merline image

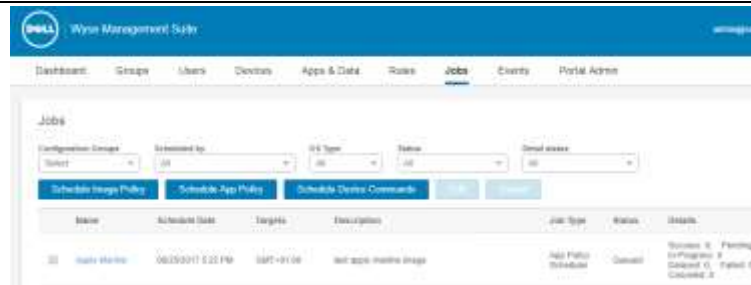
Run Immediately

Cancel Back Schedule

App Policy Job

[Schedule]ボタンを押します。

10



DELL Wyse Management Suite

Dashboard Groups Users Devices Apps & Data Rules **Jobs** Events Portal Admin

Jobs

Configuration Group Scheduled by OS Type Status Detail view

Schedule Image Policy Schedule App Policy Schedule Device Commands

| Name | Schedule Date | Targets | Description | Job Type | Status | Details |
|------------------|--------------------|------------|--------------------------|---------------------|-----------|--|
| 00 Apply Marline | 06/29/2017 5:25 PM | 00PT-01:00 | test apply merline image | App Policy Schedule | Completed | Success 0, Pending 0, Error 0, Failed 0, Cancelled 0 |

Jobs

登録した Job がリストされていることが確認
できます。

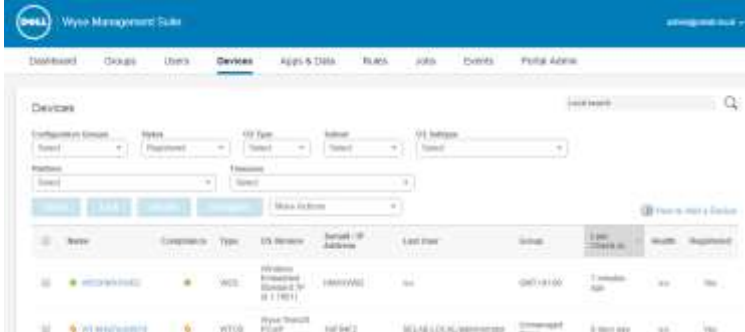

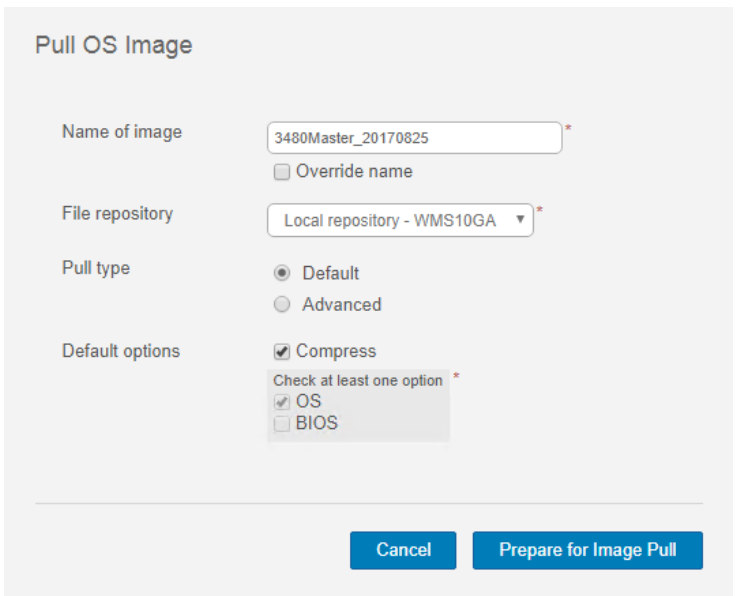


5 OS イメージング

WMS ではアプリケーションと同様に、OS イメージポリシーを用いて、OS イメージの展開を行います。OS イメージポリシーではイメージファイルとその対象を定義します。作成した OS イメージポリシーをジョブとしてスケジュールすることで、実際の展開を行います。

5.1 シンククライアント OS イメージの取得

WMS による OS イメージの取得には、WMS に添付されている Merline イメージバージョン以降の Merline イメージがシンククライアント端末に適用されていることが必要となります。

| 手順 | 画面 | 説明 |
|----|---|--|
| 1 |  | WMS にサインインし、Device タブを選択します。 デバイスリストよりOSイメージを取得する端末のホスト名をクリックします。 |
| 2 |  | [More Action] をクリックし、[Pull OS Image] を選択します。 |
| 3 |  | Pull OS Image 必要事項を入力し、[Prepare for Image Pull] ボタンを押します。 本書では下記を入力します。 Name of Image: 3460Master_20170825 File Repository: Local Repository Pull type: Default Default Option: Compress |




| | | |
|---|---|--|
| 4 | <div><h3>Pull OS Image</h3><p>Name of image <input type="text" value="3480Master_20170825"/> *</p><p><input type="checkbox"/> Override name</p><p>File repository <input type="text" value="Local repository - WMS10GA"/> *</p><p>Pull type <input checked="" type="radio"/> Default <input type="radio"/> Advanced</p><p>Default options <input checked="" type="checkbox"/> Compress</p><p>Check at least one option *</p><p><input checked="" type="checkbox"/> OS <input type="checkbox"/> BIOS</p><p><input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="Pull image"/></p></div> | <p>Pull OS Image</p> <p>[Pull image] ボタンを押します。</p> |
|---|---|--|

5.2 Image の Push

| 手順 | 画面 | 説明 |
|----|----|---|
| 1 | | <p>レポジトリ</p> <p>OS イメージのレポジトリは WMS を導入した際に指定したロケーション配下の repository¥osImages¥valid というフォルダーとなります。</p> <p>本書では C:¥WMSRepository を指定しているため、C:¥WMSRepository¥repository¥osImages¥valid というフォルダーがアプリケーションレポジトリとなります。</p> |
| 2 | | <p>WMS にサインインし、App & Data タブを選択し、OS Image Repository -> WES をクリックします。</p> <p>レポジトリに保存されている OS イメージが確認できます。</p> |



| | | |
|---|---|---|
| 3 |  | 左ペインより OS Images Policies -> WES を選択します。 右ペインにて [Add Policy] ボタンを押します。 |
| 4 |  | Add WES Policy 必要事項を入力し、[Save] ボタンを押します。本書では下記設定とします。 Policy Name: Initialize 3480 Image Group: <Device Group 名> OS Image: <OS Image 名> OS Subtype Filter: WES7P Rule: Force this version |
| 5 |  | Alert OS イメージポリシーのジョブ設定をするか確認されます。 本書では [Later] を押します |
| 6 |  | OS Image Policies -> WES にて先ほど作成したポリシーが追加されていることが確認できます。 |



| | | |
|---|---|---|
| 7 |  | Jobs タブを選択します。 [Schedule Image Policy] ボタンを押します。 |
| 8 |  | Image Update Job 必要事項を入力し、[Preview] ボタンを押します。 本書では下記設定とします。 Policy: <OS Image Policy 名> Description: Test OS Image Policy Run: Immediately |
| 9 |  | Image Update Job [Schedule] ボタンを押します。 |

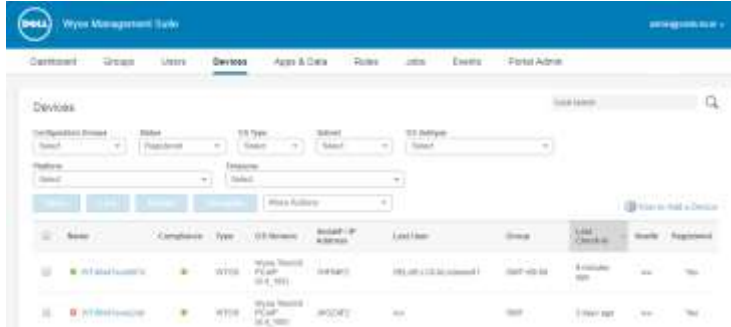
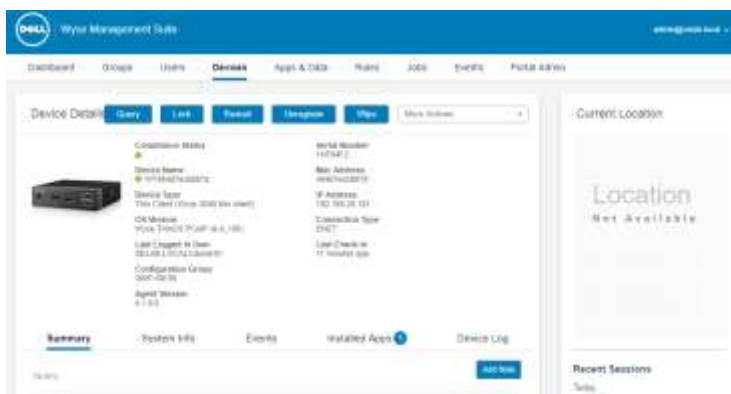
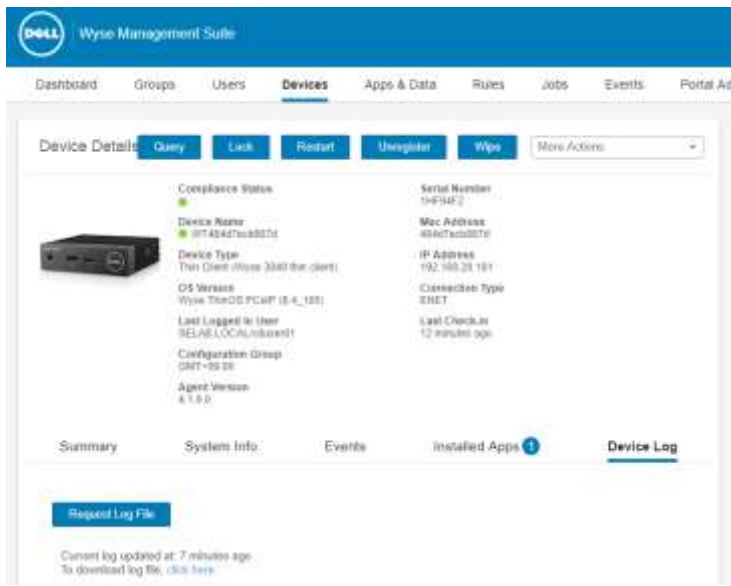


6 トラブルシューティング

WMS ではシンクライアントデバイスでの問題発生時のトラブルシューティングを支援する機能を提供しています。

- System Info : デバイスの各種パラメータの確認 (ホスト名、シリアル、BIOS 情報等)
- Installed Apps : インストールされているアプリケーションパッケージ一覧
- Device Log : OS ログの遠隔ダウンロード


Device Log の取得方法

| 手順 | 画面 | 説明 |
|----|---|--|
| 1 |  | WMS にサインインし、Device タブを選択します。 デバイス名をクリックします。 |
| 2 |  | 中央ペインの Device Log タブを選択します |
| 3 |  | [Request Log File] ボタンを押します |



4

The screenshot displays the Dell Wyse Management Suite interface. The top navigation bar includes links for Dashboard, Groups, Users, **Devices**, Apps & Data, Rules, Jobs, Events, and Portal Ad. Below this, the 'Device Details' section is active, showing a list of actions: Query, Lock, Restart, Unregister, Wipe, and More Actions. The device information is presented in a grid format:

| Device Details | Serial Number |
|--|---|
|  Compliance Status: ✔ Device Name: WT40476038712 Device Type: Thin Client (Wyse 3040 Thin client) OS Version: Wyse ThinOS PCoP (8.4.100) Last Logged In User: DELL.LOCAL\johnd01 Configuration Group: OMT-0039 Agent Version: 4.1.0.9 | 1175472 Mac Address: 454476038712 IP Address: 192.168.20.181 Connection Type: ETNET Last Check-in: 12 minutes ago |

Below the device details, there are tabs for Summary, System Info, Events, Installed Apps (1), and **Device Log**. Under the Device Log tab, there is a 'Request Log File' button and a message: 'Current log updated at: 0 minutes ago. To download log file, click here.'

[Request Log File] 下に表示される “To download log file, click here” のハイパーリンクをクリックします。